

記録  
フィルム  
カラー／37分  
日・英語版

■企画  
文化庁

スタッフ

■製作

山本孝行

■脚本・演出

村山正実

■演出補佐

米村栄子

■撮影

山屋恵司

■撮影助手

森 英男

■撮影応援

木村光男

今野聖輝

■照明

本橋俊男

■照明助手

加々美寿夫

■録音

荒井富保

■効果

帆苺幸雄

■タイトル

菁映社

■編集

吉田栄子

■ネガ編集

加納宗子

■選曲

徳永由紀子

■録音スタジオ

アオイスタジオ

■現像

IMAGICA

■ナレーター

山川静夫



文部科学省選定 2007年教育映像祭最優秀作品賞・文部科学大臣賞

重要無形文化財「桐塑人形(とうそにんぎょう)」保持者(人間国宝)に認定された人形作家・林駒夫(はやしこまお)の『左近の桜』の制作工程を記録するとともに、林の日常を通して人形への熱い想いとわざを伝える。

■協力

京都国立博物館 東京国立近代美術館 京都府立総合資料館  
京都府京都文化博物館 京都御苑 平安神宮 常寂光寺 青蓮院  
将軍塚大日堂 衣紋道研究会(山科言泰 山科言和 寺石 勲  
久世建子 冷泉通子) 有職結髪(南 登美子 南 節子  
菊池知恵子 林 美木子)



古代、人は目に見えない自然の力を、神として畏れ敬ってきた。その依代(よりしろ)としてつくられたのが人形(ひとがた)で、林駒夫はこの畏敬するかたちを人形に託して今も制作を続ける人形作家である。

1936年(昭和11年)に生まれ、2002年(平成14年)、重要無形文化財「桐塑人形」保持者(人間国宝)に認定された。十三世面屋庄三(めんやししょうざう)より御所(ごしょ)人形の制作技法を学び、また北沢如意(きたざわによい)から能面打ちを学び、さらに平中歳子(ひらなかとしこ)に師事して桐塑人形の制作技法を修得した。

映画は、林が京都御所・紫宸殿(ししいでん)の南階下の左側に植えられている桜をモチーフに、その化身として現れた女官から着想した『左近の桜』(さこんのさくら)を完成させるまでを記録した。桐の挽き粉(おが屑)と生麩糊(しょうふのり)を練り上げた弾力性のある粘土状の素材を用いて制作する桐塑人形。林はこの技法を継承し、京都の歴史や文化、有職故実(ゆうそくこじつ)、伝統芸能への深い知識を反映させ、優美で格調高い人形を制作してきた。